1年1組　英語科学習指導案

令和8年10月23日(金)
学習指導者　上間　正弥
ALT　ハンナ・マリー・モロー

1　単元名　UNIT 5　Hi, David !

「Here We Go! ENGLISH COURSE1」(光村図書)

2　校内研究との関わりについて　※やまなし教育創造推進事業

研究主題　**「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する児童生徒を育成する」**
～組織でQU(WEB)・NINO・学調等のエビデンスやICTを活用した自己調整学習を通して～

⑴ 標準化検査WEBQUを活用して組織で「安定と活性化」を両立する学級集団づくりを実現する
・班の3つの機能で安定をつくる（① 居場所　② 目標を達成する組織　③ 非承認能力の育成）

⑵ 認知能力検査NINOで自分の特性(強み・弱み)を理解し、単元ごと学びを自己調整する
・学びとる力(記憶力、言語能力、数的能力、処理速度、思考力)を活用して深い学びにつなげる

⑶ 単元を貫く言語活動でめあてを達成し、主体性・活性化を向上する
・個別最適な学びと協働的な学び　（※生徒の多様性を認め、尊重する単元内自由進度学習）
→① 動機付け　② 学習方法　③ 自己調整・粘り強さ
※エビデンスを活用した単元内自由進度学習でめあてを達成し、主体性・活性化を向上する。
（学習の個性化・指導の個別化）
・「学習キャリアパスポート(GKP)」の活用
・教研式　認知能力検査NINO、標準学力検査NRTを活用
・教職員の合理的配慮を一元化した「座席表」活用（WEBQU、NINO、NRTのデータ）
・協働的な学び　（※現状を変え未来を創り出す力）
→① 目標達成のための交流　② 違いを追求し、学びを広げ　③ 深め・創造する

⑴ WEBQUのデータを活用する　※生徒・学級の実態（令和8年6月16日実施）
※10月現在の面談・観察の結果から。
学級生活満足群9名、侵害行為認知群2名、非承認群1名、未実施1名

①学級の型　少人数特別学級
②集団の発達段階　①緊張・混沌→②小集団→③中集団→④大集団→⑤親和的集団
③ルールの定着　5内在化。教師の指示がなくても注意し合う
4教師の指示が少なくてもほぼ適切に行動
3教師が指示すれば行動する
2指示に従うが時間がかかる
1反発され教師の支持が通りにくい
④リレーション　5親和的。全体で本音の共有ができる
4多くが誰とでも交流できる
3小グループ内でそれぞれ仲が良い
2不安で形成された小グループと孤立
1グループ間対立・孤立・裏面交流
⑤安定度　5安定化　4固定化　3流動化　2不安定化　1混沌化
⑥活性度　5創造的　4活用的　3遂行的　2停滞的　1不履行

⑦学級集団における優先事項

承　　認…生徒同士の配慮と関わりを心掛け、面談や観察を通して一人一人の認知を聞き取り、「本人が実践する場面」「他者から認められる場面」を設定し、承認感を高められるように全職員で協働して指導や支援を行っている。

被 侵 害…話し合い活動のルールは定着している。毎日の話し合い学活や協働学習を通して、不安や緊張感なく発言できるように段階的な学習を仕組んでいる。
（個人の考えを形成→班や適したグループで交流→全体で交流）

学習意欲…意欲においては個人差がある。個人に適した課題を設定させ、達成するために、これまでの学びと関連させながら学習計画を立て、学習を進めていく。学習キャリアパスポートを活用（①動機付け ②学習方法③ 自己調整・粘り強さ）しながら意欲を向上させる。

学習方略…課題解決に向けた他者との言語活動を通して、知識を定着させるとともに、思考力・判断力を協働により向上させる工夫をする。

⑵ 「班活動」における日常的な取り組み

安定した学級・班の形成は、生徒が自分の考えを自由に表現し、教科の目標を達成するための重要な基盤である。生徒同士が互いを尊重し、考えを認め合える学級集団づくりが求められている。WEBQU が目指す複線型の関係性を構築するために、班には以下の３つの機能を取り入れている。

① 一人一人の居場所づくり

WEBQU を活用して、生徒一人ひとりの認知を把握し、面談を通じて支援の必要性や配慮事項を明確にする。これらの情報は全職員で共有し、関わり方や配慮の方法について協働で検討・実践をする。また、定期的（短期）に学級満足度調査を実施し、生徒が班に「居場所」を感じているかどうかを確認している。

② 目標を達成する組織として機能させる

学級集団が多様性を認め合いながら、目標を達成する公共的な組織として機能することを目指している。生徒自身が課題を見付け、主体的に解決に取り組むことで、集団としての力を高める。課題達成後には、班員の入れ替えや班長の交代、生徒同士の「ゆるくつなぐ」交流機会を増やすことを通じて、人間関係が私的な関わりで固定されないよう工夫する。

③ 非認知能力を育成する

「居場所」や「組織」としての機能を通じて、生徒同士が互いの個性を認め合い、本音で感情を交わせる関係性を築く。これにより、公的な場面でも誰とでも関われる人間関係の構築を目指す。

⑶ 学習における生徒の実態

本学級の生徒は記憶力が高く、これまでに学習した内容をいかしながら学習することができる。また、英語の授業にも意欲的に取り組み、ALT とも積極的にコミュニケーションを取ろうとする生徒が多い。

一方で、数的能力がやや低く、文構造や語順をパターンとして認識することに難しさを感じている生徒が多い。そのため、語順トレーニングを授業内で活用し、文構造を視覚的に理解するなどの支援を行い、表現の定着を図っていく。

本単元までに生徒は疑問詞 what の英文を学習し、クラスルームイングリッシュとして命令文に触れてきた。また、命令文、疑問詞 when, where はどちらも生徒にとって日常の場面で使いやすい

表現であるため、コミュニケーション場面を多く設定し、表現の定着を図っていく。

3　単元構成・及び教材について

本単元は「David が通うニューヨークの高校の様子」を題材としている。David は、Tina の幼馴染で、ニューヨークの高校に通っている。Tina の紹介で、David とビデオ通話することとなった Kota たちは、はじめは少し緊張しながらも、学校生活などについていろいろな質問をする。また、David が車いすテニスに打ち込んでいることを知り、感銘を受ける。

本単元では、命令文、疑問詞 when, where の 3 つの文法を新たな文法事項として扱っている。これらの新出文法を登場人物たちのやり取りを通して「どこ」や「いつ」なのかをたずねたり伝えたりする言い方や、指示を出したり誘ったりする言い方を理解し、それらを「おすすめの観光スポットを ALT に伝える」という Goal の活動で表現できることが求められる。そこで、「ハンナ先生に道志村のおすすめスポットを紹介し、それに関わる質問に答えるには、どのような表現が最も適切だろうか？」という単元を貫く学習課題を設定した。この課題を解決するために、語彙や文法の定着を目的とした学習だけでなく、ALT との対話活動を通して実際のコミュニケーション場面を多く設定していく。

Unit の指導の流れとしては扉→Part 1〜3→Goal という構成になっている。各 Part においては学習内容として本文（本文の内容理解／語彙・文法の導入／音読）と活動（Review／Listen／Speak／Write／文法の整理）がそれぞれにあり、Goal で Unit の目標となる活動（Listening あるいは Reading／Speaking あるいは Writing／振り返り）を行う。

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果から、本校は「話すこと」に若干の課題があると考えられる。そこで、これまでの個別学習中心の授業・単元計画に、言語活動と中間指導をバランスよく盛り込むため、【A】言語活動・【B】個別学習・【C】中間指導を行き来する授業を設定し、課題の改善を目指していく。

4　「CAN-DO リスト」の形での学習到達度目標

話すこと ［やり取り］	日常的な話題について，限られた時間で事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりすることができる。

5　単元の目標

単元目標【重点化領域】 1	道志村を楽しみたいハンナ先生のために、ハンナ先生に合った道志村のおすすめスポットを紹介することができる。【話すこと（SI-2）】
単元を貫く学習課題 （問いの形で設定）	ハンナ先生に合った道志村のおすすめスポットを紹介するにはどのようなことを聞き出し、伝えればよいだろうか？

6　言語材料

Part 1　Turn on your camera. ／ Don’t be shy. ／ Let’s begin.

Part 2　Where’s the science lab?　— It’s on the first floor.

Where do you have lunch?　— We usually eat in the cafeteria.

Part 3　When’s your next match?　— It’s next month.

When do you practice?　— After school and on weekends.

○語彙

cafeteria / between / after school / face / camera / now / know / life / sure / begin / um / shy / anything / turn on ～ / Good to see you. / Sorry. / Sure. / where / ethnic / diversity / gate / lab / room / lunch / choose / dish / pizza / be famous for ～ / where's / nurse / nurse's office / office / stair / entrance / next / near / cooking / between ～ and ... / next to ～ / some / trophy / tennis / show / photo / wow / wheelchair / match / luck / Good luck! / when's / game / video game / diary / morning / afternoon / evening / before / bath / dinner / write in one's diary / take a bath / go to bed / Sunday / a.m. / p.m. / Chinatown / sunset / noon / tour / place / time / from ～ to ... / at noon / after that / min. / miss

7　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと[やり取り]	〈知識〉 命令文、Where ～?、When ～? の文の意味・形・使い方を理解している。 〈技能〉 相手の希望に合わせた村のおすすめスポットを提案するために、時間や場所の希望をきき出したりする技能を身につけている。	ハンナ先生に合った道志村のおすすめスポットを提案するためにハンナ先生のしたいことや希望を聞き出したり、それを踏まえた提案をしたりしている。	ハンナ先生に合った道志村のおすすめスポットを提案するためにハンナ先生のしたいことや希望を聞き出そうとしたり、それを踏まえた提案をしようとしたりしている。

8　NINO のデータを活用する　　◎強みの活かし方　　△課題の補い方

(1)記憶力

◎ 既習の知識を思い出す … 疑問詞 what, クラスルームイングリッシュの命令文

◎ 既習の知識を活かす … 英文の構造・文法事項

△ 他者に説明してみる。　(△ 協働的な学びの中で確認する)

(2)言語能力

◎ ペアワークや ALT とのやり取りを通して表現の定着を図る。

◎ 振り返りの場面で、重要語句を適切に用いてまとめる。

△ 単語→フレーズ→文というスモールステップで練習する。

(3)数的能力

◎ 文法の規則性に気付き、理解する。

△ 語順などを色分けし、視覚的にわかりやすくする。

(4)処理速度

◎ 教科書本文を素早く正確に聞き取ったり読み取ったりする。

◎ 素早く問題を解き、より多くの問題に繰り返し取り組む。

△ 活動に入る前に見通しを持つ。

(5)思考力

◎ 既習の学習内容（教科書本文の内容）と関連付けて考える。

◎ 英文の意味や文脈から意味を推測・要約する。

△ 表現活動では他者参照やテンプレートに基づいた活動をする。

9　指導と評価の計画

時	ページ	基本文等	ねらいと主な活動内容 ※帯活動は省略	◎記録に残す評価 ○形成的評価	単元の到達目標を意識したポイント
1	扉 (pp.72-73)		ストーリーのおおまかな内容をつかむ。 ・単元の目標を確認し、自己目標を設定する。 ・Speak（About You）の問い”What do you like about your school / village?”に対するやり取りを行う。 ・ストーリー全体を通して聞き、ピクチャーカードを場面順に並べ替える。 ・映像を見て、ストーリーのおおまかな内容を確かめる。	○ワークシート等から、どのような自己目標を設定しているかを見取る。 ○Speak（About You）の問い”What do you like about your school / village?”に対するやり取りなどから、単元で扱うトピックについて、どの程度聞いたり話したりできるかを見取る。 ○学習者用端末でのピクチャーカードの並べ替えの様子などから、ストーリーの概要を捉えているかを見取る。	
2	Part 1	• Turn on your camera. • Don’t be shy. • Let’s begin.	本文から命令文の意味・形・使い方を理解する。 ・ワークシートの問題に取り組む中で語句や表現、命令文の意味・形・使い方を確かめる。 ・本文を聞いたり音読したりして、発音と綴りを一致させる。	○教科書やワークシート等の Q への回答の様子から、命令文について理解しているかを見取る。 ○意味を理解し、英語らしい発音やリズムで本文を音読しているかを見取る。	
3	Part 1		命令文の理解をもとに本文内容を理解する。 ・日本に来る人へ向けて、日本でしてはいけないことというテーマで、ALT と実際のコミュニケーションの中で命令文を使う練習をす	○教科書やワークシート等の Q への回答の様子から、本文内容を理解しているかを見取る。 ○ALT の活動の様子から、コミュニケーションの中で使う練習ができているかを見取る。	

			る。 ・ワークシートの Q&A などを通して、本文の詳細を確かめる。		
4	Part 2	• Where's the science lab? — It's on the first floor. • Where do you have lunch? — We usually eat in the cafeteria.	本文から疑問詞"where"の意味・形・使い方を理解する。 ・ワークシートの問題に取り組む中で語句や表現、疑問詞"where"の意味・形・使い方を確かめる。 ・本文を聞いたり音読したりして、発音と綴りを一致させる。	○教科書やワークシート等の Q への回答の様子から、命令文について理解しているかを見取る。 ○意味を理解し、英語らしい発音やリズムで本文を音読しているかを見取る。	
5	Part 2		疑問詞"where"の理解をもとに本文内容を理解する。 ・道志に始めてくる人へ向けて道志の観光スポットの場所を紹介するというテーマで、ALT と実際のコミュニケーションの中で疑問詞"where"を使う練習をする。 ・ワークシートの Q&A などを通して、本文の詳細を確かめる。	○教科書やワークシート等の Q への回答の様子から、本文内容を理解しているかを見取る。 ○ALT の活動の様子から、コミュニケーションの中で使う練習ができているかを見取る。	
6	Part 3	• When's your next match? — It's next month. • When do you practice? — After school and	本文から疑問詞"when"の意味・形・使い方を理解する。 ・ワークシートの問題に取り組む中で語句や表現、疑問詞"when"の意味・形・使い方を確かめる。 ・本文を聞いたり音読したりして、発音と綴りを一致させる。	○教科書やワークシート等の Q への回答の様子から、命令文について理解しているかを見取る。 ○意味を理解し、英語らしい発音やリズムで本文を音読しているかを見取る。	

7	Part 3	on weekends.	疑問詞”when”の理解をもとに本文内容を理解する。 ・道志村に観光に行くなら、どのシーズンが良いか知りたい金森校長先生に向けたコミュニケーションという場面設定の中で疑問詞”when”を使う練習をする。 ・ワークシートの Q&A などを通して、本文の詳細を確かめる。	○教科書やワークシート等の Q への回答の様子から、本文内容を理解しているかを見取る。 ○ALT の活動の様子から、コミュニケーションの中で使う練習ができているかを見取る。	
8 （本時）	言語活動		村のことを知りたいと思っている、小学校の ALT のオーウェン先生のために村のおすすめスポットを紹介する。 ・道志村のおすすめスポットを紹介する表現を確認する。 ・オーウェン先生へ向けて道志村のおすすめスポットを紹介する動画を撮影する。	○活動の様子から紹介に必要な表現を正しく使えているか、適切な内容を伝えられているかを見取る。	★中間指導の際、単語で伝えるのではなく正しい英文、表現で伝えられるように発話を見直す。また、1つの場所だけでなく複数の場所を紹介できるようにし、内容面の充実を図る。
9	言語活動		初めて村に遊びに来る人が楽しめるように、相手とのやり取りを通して、村のおすすめスポットを提案する。 ・相手のしたいことや希望、詳しい日程や場所などを聞き出す表現や聞き出し、それを基に村のおすすめスポットを提案する。	○活動の様子から相手の希望を聞き出したり、それを基におすすめのスポットを紹介したりする表現を正しく使えているか、適切な内容を伝えられているかを見取る。	★中間指導の際、疑問詞を正しく使えているかの観点で発話を見直す。また、相手のしたいこと、希望などを聞き出すためにはどのような表現を使えばよいかを考えさせ、相手の希望に沿った場所を提案するというPT の目的を達成させるための練習としたい。

	PT		パフォーマンス課題に取り組む。	◎ルーブリックを基に評価する。	

１０　パフォーマンス課題の内容とルーブリック（評価基準）

◎パフォーマンス課題の内容

今年度から日本に来て、道志中学校で勤務している ALT のハンナ先生が休みの日に道志村を満喫したいと言っています。そこで、みなさんにはハンナ先生とのやり取りを通して、ハンナ先生が道志村でどのようなことをしたいのかなど、希望を聞き出し、それに合った村の観光スポットを提案しましょう。

◎ルーブリック（評価基準）

条件①　ハンナ先生の希望を聞き出している。

条件②　ハンナ先生の希望に合った、村のおすすめスポットを提案している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りの少ない適切な英語で話すことができる。	ハンナ先生との自然なやり取りの中で、理由や自分の感想など、より具体的な情報を付け足したりしながら、条件①、②を満たして話している。	ハンナ先生との自然なやり取りの中で、理由や自分の感想など、より具体的な情報を付け足そうとしながら、条件①、②を満たして話そうとしている。
b	コミュニケーションに支障をきたす重大な誤りはない英語で話すことができる。	条件①、②を満たして話している。	条件①、②を満たして話そうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

◎パフォーマンステストにおける具体的な生徒の姿

○a の姿

S: What do you want to do in Doshi?

T: I want to swim in the river.

S: That’s nice. I like Doshi river. I swim in the river every summer. Do you like swimming?

T: Yes, I do.

S: Are you good at swimming?

T: I’m not good at swimming. I want to swim safely. Where can I?

S: OK! You can swim in the river near 道の駅. I like the river. It’s not deep, so you can swim safely.

T: Thank you!

○b の姿

S: What do you want to do in Doshi?

T: I want to swim in the river.

S: That’s nice. Do you like river?

T: Yes, I do.

S: OK! You can swim in the river near our school.

１１　本時指導と評価の計画　　（全９時間中の第８時）

(1) 日時　10月23日（金）5校時

(2) 場所　１年１組　教室

(3) 本時の目標(単元を貫く学習課題)

「　ハンナ先生とのやり取りを通して、ハンナ先生に合った道志村のおすすめスポットを紹介するにはどのようなことを聞き出し、伝えればよいだろうか？　」

(4) 本時の展開

時間	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点
	○【Greeting】 挨拶をする。	○【Greeting】 挨拶をする。	
５分 導入	○【warm-up】 曜日，日付，天気を答える。	曜日、日付、天気などを尋ねる	いつもの授業のように ALT が聞く。
３５分 展開	めあて：村のことを知りたいと思っている小学校の ALT のオーウェン先生のために村のおすすめスポットを紹介する。 授業の最後にオーウェン先生へ向けた動画を撮ることを伝える。 ○GKP を記入し学習計画を立て、それぞれの学習を行う。 ・以降、下記の【A】【B】【C】を複数回繰り返す。 ・【A】１分ずつ、【B】3～5 分、【C】2 分を基本とする。それぞれの回数や順番は生徒の実態に応じて授業者が適宜調整する。 【A】道志村のおすすめスポットについてペアで紹介し合う。（１分ずつ） 【B】個別学習で自分の紹介文を向上させる。（３～５分）	個別、協働のどの方法で紹介文を考えていくか、その活動の中で NINO のどの能力を生かせるかを考えさせる。 個別学習の手段やルールとして以下の内容をモニターに提示する。 ・教師が設定した３グループに分か	

	【C】中間指導（２分以内）	れて行う。 ・これまでの学びを教科書等で振り返り生かせる表現を探す。 ・誰かと協働する。 ・おすすめスポットの情報を得るための手段としてのみタブレットを使用可とする。 ALT、JTE ともに机間巡視をしながら、積極的に声掛け、支援を行う。 どんな表現を使ったかを共有し、言語面・内容面の両方で中間指導をする。 言語面：ALT が【A】の活動中に気付いた誤りを指導する。必要に応じて JTE が補助する。 内容面：JTE が指導する。	言語面では、知らない単語や表現を既習事項で表せないかを考えさせる。 内容面ではどんな内容を伝えたら、初めて村を訪れる人にスポットの魅力が伝わるかを考えさせる。
５分	○オーウェン先生に向けて、道志村のおすすめスポットについて紹介する動画を撮影する。		
５分 まとめ	○【Reflection】 GKP を記入する。	○【Reflection】 GKP を記入させる。	
	○【Greeting】 挨拶をする。	○【Greeting】 挨拶をする。	

【 英語科 】単元名：Unit5「Hi, David!」　NINO：□思考力 □記憶力 □言語能力 □数的能力 □処理速度　Name＿＿＿＿＿＿

この単元で身につけるべき力	知識・技能 命令文、Where ～? When ～? の文の意味・形・使い方を理解し、その理解をもとに、観光プランについてのチャットのやり取りの内容を読み取ったり、観光プランを考えるために、時間や場所の希望をきき出したりする技能を身につけている。	S：相手の希望に合わせた村のおすすめスポットを提案するために、時間や場所の希望をきき出したりするために必要な語彙や文法を身につけている。
	思考・判断・表現 観光プランを伝えるメモを完成させるために、チャットのやり取りから、必要な情報を読み取っている。おすすめの観光プランを考えるために、ALT の行きたい場所やしたいことなどについてやり取りしている。	S：ハンナ先生に合った道志村のおすすめスポットを提案するためにハンナ先生のしたいことや希望を聞き出したり、それを踏まえた提案をしたりしている。
	主体的に取り組む態度 観光プランを伝えるメモを完成させるために、チャットのやり取りから、必要な情報を読み取ろうとしている。 ALT におすすめの観光プランを考えるために、行きたい場所やしたいことなどについてやり取りしようとしている。	S：ハンナ先生に合った道志村のおすすめスポットを提案するためにハンナ先生のしたいことや希望を聞き出そうとしたり、それを踏まえた提案をしようとしたりしている。 ・目標の達成のために GKP を活用しながら、積極的に授業に取り組んでいる。
学習方法	① 基本文ワークシート ②本文内容ワークシート ③単語テスト ④ハンナＴとの活動 ⑤デジタル教科書（単語のフラッシュカード・本文の音読練習） ⑥ワークの活用（レッツ、感暗） ⑦単語練習シート（家庭学習）	

単元を貫く学習課題　「ハンナ先生に合った道志村のおすすめスポットを紹介するにはどのようなことを聞き出し、伝えればよいだろうか？」　㊎ 72~81　㊐ 50~57

学習の見通し	1(　/　)	2(　/　)	3(　/　)	4(　/　)	5(　/　)	6(　/　)	7(　/　)	8(　/　)	9(　/　)	月　日　単語テスト・単元テスト・パフォーマンステスト
	扉 ・ Part1 ・ Part2 ・ Part3 ・ まとめ									
学習活動	文　法　：□part1の新出文法の使い方を理解する→□自己表現ができる　□part2の新出文法の使い方を理解する→□自己表現ができる　□part3の新出文法の使い方を理解する→□自己表現ができる 本文内容：□本文全体を聞いて Unit の大まかな内容をとらえる　□part1 に関する質問に答える　□part2 に関する質問に答える □part3 に関する質問に答える そ の 他　：□各 part の単語テスト（フォーム）で9割以上の点数を取る　□それぞれの本文をスラスラ音読できる □教科書のリスニング問題 □ワークシートに取り組む中で、この問題をなぜ間違えたのかを理解する									
課題設定										
学習計画	・やること ・NINO との関わり	・やること ・NINO との関わり	・やること ・NINO との関わり	・やること ・NINO との関わり	・やること ・NINO との関わり	・やること ・NINO との関わり	・やること ・NINO との関わり	・やること ・NINO との関わり	・やること ・NINO との関わり	
振り返り 授業										
振り返り NINO										
自己評価（◎/○/△）										
家庭学習										印